

【まえがき】

山崎断層帯は、岡山県勝田郡勝田町から兵庫県三木市にかけて北西―南東方向に延びる総延長 87 km、確実度 I、活動度 B 級の活断層とされている（活断層研究会，1991）。

山崎断層帯西部（大原断層，土万断層，安富断層の約 50 km 区間）は，すでに平成 7 年度調査（兵庫県及び岡山県）により，およそ 1100 年前の西暦 868 年に発生した播磨地震（ $M=7$ 以上）のさい活動した可能性があること，活動間隔が千数百年～二千数百年の範囲にはいる可能性が高いことなどがわかってきた。これに対し，山崎断層帯東部（琵琶甲断層，三木断層）や暮坂峠断層の活動性評価は未解明のまま残されていた。

山崎断層帯東部の活動履歴に関する情報は，山崎断層帯全体の評価をするさいには是非とも必要であり，平成 10 年度には，詳しい地形・地質調査が実施された。この調査では，琵琶甲断層，三木断層が活動的な断層である可能性が高いことが示されるとともに，山崎断層系とほぼ直交する方向に新しい活断層（草谷断層と命名）が見出された。そして，平成 11 年度には，10 年度調査を受け，これら断層の活動履歴を調べる目的でトレンチ調査等が実施された。

そして平成 11 年度調査の結果，トレンチ調査を実施した琵琶甲断層，草谷断層では，1000 年前～3000 年前の間に少なくとも一度は活動していることが明らかになった。また，暮坂峠断層においても，約千数百年前以降に大きな地変が発生していることが明らかになった。前二者については，現時点で活動間隔を正確に求めることは困難であるが，少なくとも完新世以降 2 回以上活動していることも判明した。

以上の結果，山崎断層帯東部を構成する断層の最新活動時期も，同西部の断層同様 868 年播磨地震に相当する可能性がでてきた。しかし，現段階で山崎断層帯全体を評価するには，推定要素が大きい。今後さらに，活動間隔や変位量を含めさらに新たな情報が期待できる箇所においてトレンチ調査等を実施し，それらの結果を踏まえて山崎断層帯評価を行なう必要がある。